

感染性胃腸炎について

新潟県福祉保健部健康対策課

1 流行状況

- 平成 31 年第 16 週の感染症発生動向調査（サーベイランス）において、感染性胃腸炎の定点当たり報告数は全県で **15.23** となっており、前週の **8.42** から増加しました。
- 国の示す警報基準（定点当たり報告数20）を超えている管内があること、また、社会福祉施設における集団発生の報告もあることから、調理や食事の前には十分に手を洗うなど、引き続き予防を心がけましょう。

2 感染性胃腸炎とは（原因となる主なウイルス等）

	ノロウイルス	ロタウイルス
主な症状	嘔吐、下痢、腹痛、軽度の発熱など	嘔吐、下痢、腹痛、発熱
潜伏期間	1～2日間（平均 36 時間）	1～3日間（平均 48 時間）
経過	通常、3日以内で回復	通常、嘔吐は1～2日、下痢は1週間程度で回復
流行する世代	全ての世代で発生	乳幼児を中心に流行し、まれに成人でも集団発生が起こる
治療	特効薬はありません。乳幼児のロタウイルス感染では重症化することがあります。嘔吐や下痢で脱水症状を起こしやすいため、水分補給をしましょう。	

3 予防方法

- 石けんを用いた流水による手洗いを徹底しましょう。特に排便後、おむつ交換後、また調理や食事の前には十分に手を洗いましょう。
- 便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんを用いた流水で十分に手を洗いましょう。
- カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心温度 85～90℃で 90 秒以上の加熱が必要です）

4 学校保健安全法における扱い

- その他の感染症（第三種感染症として扱う場合もある）と定められています。
- 症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態のよい者は登校（園）可能ですが、手洗いを励行することとされています。

5 県内における胃腸炎患者等から検出された病原体（起因ウイルスの種類と型別）

検体採取月	胃腸炎の集団発生事例の病原体検査結果								感染症発生動向調査の病原体検査結果									
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
	検出事例数								検出患者数									
	1	0	0	2	1	1	4	1	2	15	4	3	13	7	10	9	8	6
	ウイルス検出数								ウイルス検出数									
ノロウイルス	4			5	3	3	20	1	22	6			2	1	5	7	7	4
GI. 2							9											1
GI. 4										1								
GI. 5																		
GI. 7				1														
GI. NT							5											
GI. 2				4	3		1			3			1	1		1	1	
GI. 3																	2	
GI. 4							4	1		2			1		5	6	3	4
GI. 6							3											
GI. 8																		
GI.14	2																	
GI.17							1		11									
GI. NT	2								11									
サボウイルス													1		2			
アデノウイルス										2		2	4	3	3	2	1	
バレコウイルス										4	2	1			1			
アストロウイルス										3	3		5	3		1		1
A群ロタウイルス																		
コクサッキーウイルス										2			1	1				
エコーウイルス													1					

※一事例又は同一患者から複数のウイルス、型の検出あり

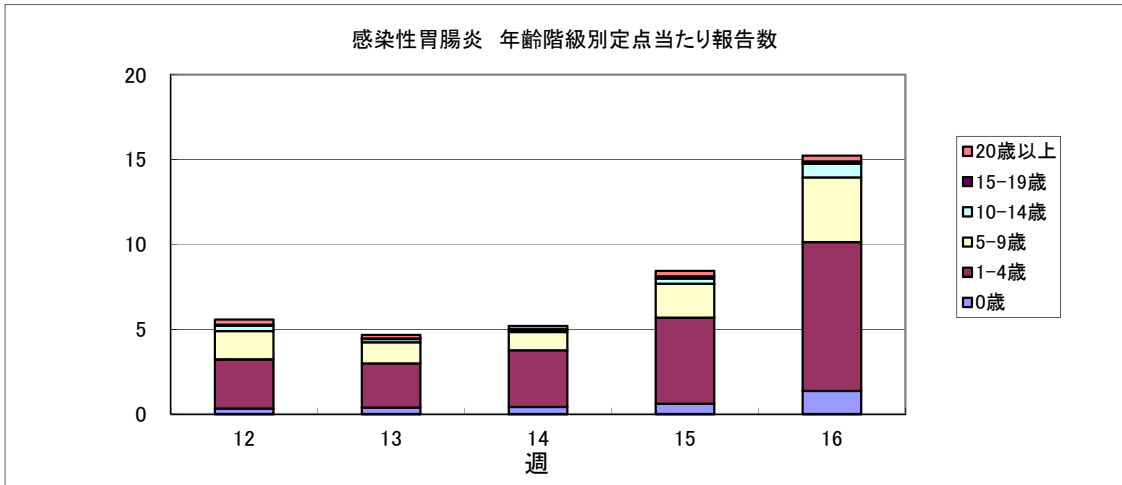
【にいがた 食の安全インフォメーション（ノロウイルスによる感染性胃腸炎・食中毒情報）】

http://www.fureaikan.net/syokuinfo/01consumer/con02/con02_02/con02_02_05_01.html

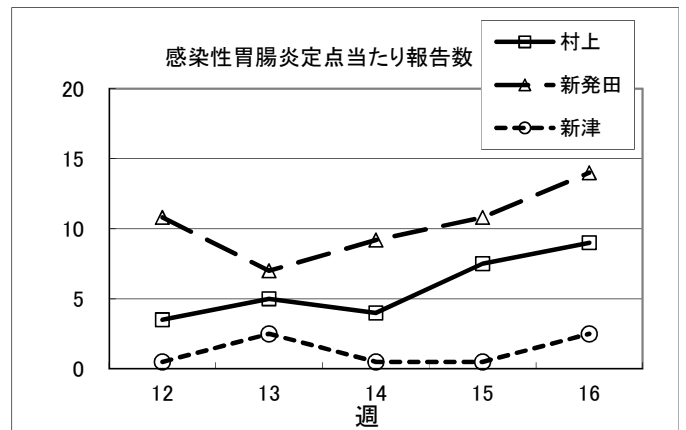
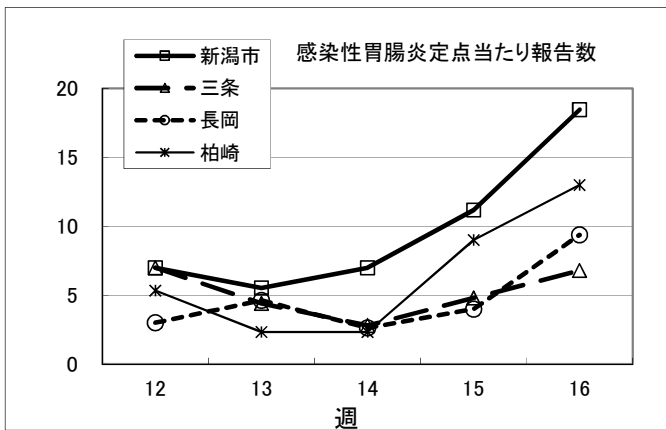
感染性胃腸炎の発生状況

—平成31年第12週(3月18日～3月24日)～平成31年第16週(4月15日～4月21日)—

○ 年齢階級別



○ 地域別



※ 新津は、新潟地域振興局管内(五泉市、阿賀町)

